

平成19年度 秋期 プロジェクトマネージャ 午後Ⅱ 出題趣旨

この出題趣旨は、独立行政法人 情報処理推進機構 情報処理技術者試験センターが公表しているものです。著作権は、同センターにありますので、その点ご注意ください。

問1

出題趣旨：

情報システム開発プロジェクトの遂行中には、様々な問題が発生するが、プロジェクトマネージャはこれらの問題に適切に対応することが求められる。中でも、発生した問題の解決が利用部門や協力会社などプロジェクト関係者の利害にかかわる場合には、交渉を通じて問題解決を図ることが必要となる。

本問は、プロジェクト遂行中に発生した交渉が必要となる問題について、問題解決の手順や解決策などを具体的に論述することを求めている。論述を通じて、プロジェクトマネージャとして有すべきプロジェクト実行管理に関する知識、問題解決のための交渉能力や経験などを評価する。

講評：

(情報システム開発プロジェクトにおける交渉による問題解決について)では、設問が要求している趣旨を踏まえた論述が多かった。しかし、交渉の計画や解決の選択肢の検討・評価など、交渉準備に関する内容にまで触れてある論述は少なかった。また、交渉は通常、双方向で複数のやり取りがあるが、一方的なやり取りや、交渉ではなく会議での協議、関係者との調整などだけについての論述も散見された。

-----*

問2

出題趣旨：

システム開発プロジェクトでは、テスト結果や移行の準備状況などを総合的に判断して本稼働開始の可否を決める。その際、稼働予定日までに解決しきれない課題については、必要な対応策をとった上で、本稼働に踏み切ることもある。

本問は、システムの本稼働までに解決しきれないと認識した課題について、プロジェクトマネージャが、その影響範囲を調査した上で、どのような対応策を検討したか、その際にどのような工夫をしたか、具体的に論述することを求めている。論述を通じて、プロジェクトマネージャとして有すべき課題分析力や課題対応力、プロジェクトの委託者や関係者の支援を得てプロジェクトを円滑に運営する能力などを評価する。

講評：

(情報システムの本稼働開始について)では、本稼働予定日までに解決できない課題への対応を経験していることがうかがえる論述が多かった。課題に対する対応策の検討に当たって工夫した点の論述を期待したが、システム開発時やシステム移行時に発生する課題への対応策について論述しただけで、プロジェクトマネージャの視点での工夫が乏しい論述が少なくなかった。

-----*

問3

出題趣旨：

プロジェクトマネージャには、予算、納期などを管理してプロジェクトを円滑に運営するとともに、利用者が満足する情報システムを構築するために、システムの品質を確保することが求められる。このため、プロジェクトマネージャは、品質を作り込むためのプロセスと品質を確認するためのプロセスを開発標準として定め、その活動計画を作成して確実に実施しなければならない。

本問は、品質上の目標を達成するために作成した活動計画について、予算や納期の範囲内で実行可能な計画にするために、プロジェクトの状況に応じて工夫した点とともに、具体的に論述することを求めている。論述を通じて、プロジェクトマネージャとして有すべき品質の確保に関する知識、品質を確保するための活動計画を作成し遂行する能力や経験などを評価する。

講評：

（情報システム開発における品質を確保するための活動計画について）では、品質上の目標を達成するための活動計画の作成を経験していることがうかがえる論述が多かった。設問で求めている、作成した計画と作成した際の工夫の観点には触れておらず、プロジェクト遂行中に発生した品質上の問題を解決するための対応に終始している論述も少なからず見られた。

全体の講評：

各問の設問アではプロジェクトの概要を問うているが、システムや業務の概要、受験者が所属する企業や組織の紹介などに終始する論述があった。プロジェクトの概要の一般的な事項を答案用紙の“論述の対象とするプロジェクトの概要”に記入した上で、設問アでは、プロジェクトの特徴や制約など、以降の論述内容を理解する重要な事項の論述を期待している。また、設問ウでは、設問の要求である設問イの活動などとは関係なく、プロジェクトに関する評価や今後の改善点を論述しているものもあった。設問の要求内容をよく理解して記述してほしい。

注：この出題趣旨に関するメールでのご質問には、応じかねます。あしからずご了承ください。